

盛岡城小噺

#「御預人」の手土産

盛岡城が藩主の居城や藩庁として機能していた頃、都から遥か遠い盛岡にも、様々な理由で多くの人々が訪れました。その一つが「御預人」です。幕府が禁固刑として他の大名に罪人を預ける「御預（おあずけ）」という制度により、盛岡藩は江戸幕府から多くの御預人を預かるようになりました。

この制度により盛岡藩へ訪れた人の中に、方長老（ほうちょうろう）という僧侶がいます。朝鮮の事情に通じていたため、対馬藩において重用されていましたが、国の公文書を改ざんした責任を問われ、盛岡藩の御預人となります。

御預人となった人々は、その時代の情勢のあおりを受けて罪人の立場となってしまう場合も多く、御預人をあたたかく迎え入れ、親しく交流していた藩主もいました。方長老も藩から厚遇を受けた一人で、その記録は雑書にも度々登場します。

方長老は、盛岡藩士への学問の指導のほか、盛岡の伝統菓子の原料となっている黄精の製法や清酒の醸造技術、築庭の技術などを伝え、盛岡の文化に多くの影響を及ぼしたといわれます。中には、まだ一般的ではなかった牛乳の飲用を藩主に勧めたという説もあるようです。

御預人がもたらした数多の情報や知識は、往時の技術や文化の発展に大きく貢献しました。御預人の子孫がそのまま盛岡藩士となる例もあり、この制度は、盛岡が「人」という財産を得るきっかけとなりました。こうして育まれてきた文化や技術は、悠久の時を経て受け継がれ、今や盛岡の文化としてこの地に根付いています。

盛岡城復元調査推進室の取組の詳細は、市ホームページに掲載しています。

盛岡城に由来があると伝わる資料や建物等に関する情報などありましたら、盛岡城復元調査推進室(019-613-7956)まで、情報提供をお願いします。



盛岡城図



盛岡城下古絵図



狩野存信筆「三幅対」



盛岡城図



盛岡城図



国統大年譜



盛岡城図



舟橋八景



奥州街道駅程図巻



盛岡城本丸二ノ丸図



盛岡分間絵図

盛岡城日記

雑書

Vol.20 2025年1月

二〇二五年最初の回となる今回は、史料に残る様々な天守の姿を一挙にまとめた「盛岡城コレクション」をお楽しみいただきたいと思います！
それぞれの史料により、異なる佇まいで描かれる盛岡城を、存分に堪能ください。



同じ天守でも、このように並べて比較してみると、史料ごとの共通点や違いなどに気づくことができます。
今回掲載した盛岡城の天守は全て、もりおか歴史文化館に収蔵される史料に描かれているものですが、これまでの調査の中で、市内外の寺社や個人、博物館や図書館、資料館などにも、天守を描いた複数の史資料が残されていることがわかっていきます。
このような姿図や絵図、各種文献などをもとに、かつての盛岡城の姿を解き明かすべく、盛岡城復元調査推進室では今年も多種多様な資料に向き合いながら、その多角的な分析や検証を積み重ねていきます。

「3」はよく節目の数として用いられますが、今年度は、盛岡城復元調査推進室ができてから3年目となります。
二〇二五年の干支は「乙巳（きのとみ）」で、柔軟に伸び広がる草木や変化・再生などを表し、新たなステージへ踏み出す大切な年ともいわれます。
日々、訪れる変化をしなやかに受け入れながら、この一年も、一歩一歩、前に進んでいければと思います。